

ふるさと上越ネットワーク会報

NO.17 2004.7



平成十六年度

ふるさと上越ネットワーク総会開催

五月二十四日、アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区九段北）において、会員約九十名が参加し、平成十六年度ふるさと上越ネットワーク総会が開かれました。

総会では、太田会長の挨拶、また市長より来賓祝辞を戴きました。平成十五年度事業報告、決算報告、平成十六年度事業計画、予算について審議され、役員の一部改選を含め、全ての議案が承認されました。

引き続き市政についての活発な意見交換が行われました。

また、続いて「ふるさと越後大使」名刺交付式が行われました。



理事会開催

総会に先立ち、理事会が開催されました。



会長挨拶

Jネット会長

太田四郎（本町五丁目出身）

会長の太田でございます。本日はご多用の中、この平成十六年度の総会に、ご来賓の方々はじめ多数の会員の皆様方、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

開会にあたりまして一言ごあいさつを申し上げますが、それに先立ちまして、創立以来ずっと副会長をやっておられました今井副会長さんが、四月の十七日に急にお亡くなりになりました。本当に創立以来、満七年の間やっていただいたのですが、一生懸命やっていただいて、いろいろ会の発展に尽くされたわけでございます。残念なことではございますが、心から哀悼の意を表したいと思っております。

それでは、一言ご挨拶をいたしますが、皆様にご承知の通り、世の中、長い間の不況もやっとともし火が見え始めて、景気の回復の兆しが見え始めたというものの、内外の諸情勢、イラクの

情勢、今日も問題になっております北朝鮮の拉致問題、その他いろいろな情勢、それから国会もいろいろ難しい情勢で、多事多難な状況でございます。このような中、ふるさと上越ネットワークも平成九年設立以来、おかげさまで満七年を経過いたしました。八年目を迎えることができますわけでございます。

この間、皆様方のご協力によりまして、各事業の内容も充実してまいりました。新しい事業としましては、今年一月に第一回の文化講演会を、後でご説明もございますが、盛況裡に立ち上げることができました。そして本総会では、ふるさと上越をいろいろPRしていただくための、「ふるさと越後大使」をスタートさせることになりました。その他、年二回の会報や、あるいは毎月のJネットだよりにも会員の皆様たくさんのご投稿をいただくようになって来ておりまして、号を追って盛会になってきております。また、各

地のJネットサロンも次第に参加者も増えて参りまして、Jネットが定着してきているというような状況でございます。本当に皆様のご協力、誠にありがとうございます。

八年目を迎えます、八の字に因みまして、末広がりの方にしたいなと思っておるわけでございますが、いつも気になるのは会員数の減少傾向で、なんとか増加のきっかけを考えております。



来年一月から上越市は大合併ということになるわけでございますが、ついこの間テレビを見ておりましたら、おそらく九州の福岡だと思えますが、市町村合併が非常に紛糾しておるといようなテレビ報道がございました。こういう紛糾している地域ばかりではなしに、うまく

いっているところも全国にはあるということ、字幕に大きく、第一位上越市、十四市町村というふうに出ておりました。それから第二位が新潟市、これ十二だったか十三だったか、そういう数字で、出ておりました。やっぱり、上越市が市町村合併で第一位のというふうな、前々からそういうふうに通じておった訳であります、あれだけテレビ報道で大きな画面に太い字で書かれますと、実感として非常に上越市ががんばっているな、というような感じでございました。面積的にみますと、一〇〇〇平方キロ近くということになりますと、大阪市が一九〇〇いくらです、大阪府の半分以上、それから、東京都が二二〇〇平方キロですから、東京都の半分近くの面積のところ、二十万ぐらいの人が住んでいるのが上越市というようにございまして、これから上越市として一層の行財政改革を進められ、大発展を遂げられて行かれるのには、いろいろのご苦労があるんだろうと思いますが、ひとつ頑張っていただきたいと思っております。

行政区域がそのように拡大して参りますと、Ｊネットの会員の範囲も広がってくるわけで、

従いまして、それがまた会員増のひとつの大きなチャンス、従いまして、会員の皆様方につきましてはまだ入ってみえない方々に対しまして、お知らせの方々の、是非、ご紹介をお願いして、よろしくご協力のほどお願いいたしたいと思っております。

今日は年一度の総会でございます。懇親会もでございます。世の中、先ほど申し上げましたような非常に不安で、むづかしいことの多い、先があんまり自分でコントロールできないというような時代でございますが、このような時こそやっぱりみんな知ってる人が、集まりまして、いろんな知恵を出し合いながら、安心しあつていくというのが、そして、これを足がかりにして、大飛躍を遂げるのだというのに、一番いい時期ではなからうかと思っております。

今日ひととき、大いに楽しんでいただきたいと思っております。最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げて、ご挨拶にさせていただきます。どうもありがとうございます。



来賓祝辞

上越市助役

中川周一

新しい議員三十人が誕生いたしました。今後はこの三十名の議員をはじめ、多くの皆さんと手を携えて、市民本位のまちづくりに誠心誠意、引き続き努力してまいります所存であります。

改めて申し上げるまでもなく、市政運営の要諦は市民ニーズに添った市民生活に密着した市民本位のまちづくりを推進することにあります。このことを念頭に、日々の市政運営に当たって参りますので、Jネットの皆様方には引き続きご支援、ご提言を賜りますようお願いを申し上げます。

国から地方へ権限が委譲されるなどの地方分権の進展に伴い、自治体も大きく変貌、進化しております。ご案内のとおり、現在、上越市を含む周辺十四市町村で一〇〇年後の地域を見つめた新しいまちづくりについて、真剣に協議をしているところでありますが、いずれにいたしましても、これまでにはなかった新しいまちの新たな魅力や、伝統文化など、さまざまな顔が見えてくるものと考えております。市町村合併により住民自治の拡大が大いに期待できる時こそ、Jネットの皆様方からは、ふるさとの応援団として、ふるさとのまちづくりへのさまざまなご支援、ご指導を大いに期待をしているところであります。

るさと越後大使事業を立ち上げられ、上越市のさまざまな魅力などPRのご支援をいただけるものとお伺いしております。本当に心強く深く感謝をいたしております。Jネットも今年の七月で設立八周年を迎えるところであります。今後も東京の運営委員会事務局の方々と市の事務局との両輪体制で、機能強化を図りつつ、相互の連携を更に深め、Jネット活動の充実を図っていただきたいと考えております。

ふるさと上越市が今後とも皆さんの誇れるふるさとであり続け、いつまでも皆様を温かくお迎えできるよう、更に一層の努力をいたして参りますこととお誓いし、祝辞といたします。

平成一六年五月二十二日

上越市長 木浦正幸（代読）

ご紹介をいただきました中川でございます。Jネットの会員の皆様には日頃から、ふるさと上越の大変心強い応援団として、さまざまな場面でご指導ご鞭撻をいただいておりますことに對しまして、衷心より厚くお礼を申し上げますと思っております。たいへんありがとうございます。

実は本日、木浦市長が参りまして、皆様方に総会のご祝辞を申し上げる予定でございましたが、今日の資料にもお届けしてあるとおり、寺町二丁目の本山浄興寺の本堂の足掛け九年にわたる大保存修理工事が本日竣工いたしましたので、こちらの方に市長が終日出ておりますので、大変残念でございますが、本日欠席をさせていただきますことになりました。市長から皆様方には、是非よろしくということでございます。

いと思っておりますし、また本日の総会に市長から祝辞を預かって参りましたので、私から謹んで代読をさせていただきますと思っております。

（祝辞）

本日はふるさと上越ネットワーク平成一六年度総会のご盛会、誠におめでとうございます。Jネットの皆様方には、常日頃、市政全般に亘る貴重なご助言を賜り、衷心より感謝を申し上げます次第であります。先月の観桜会には「ふるさと交流会」として、ふるさと上越をご訪問いただき、本当にありがたうございました。幸い天候にも恵まれ、ふるさとの素晴らしい桜を、心ゆくまでご堪能いただけたものと存じております。

さて、市政を取り巻く最近の動きをいたしましては、さる四月二十五日に市議会議員選挙が行われ、三十三名の中から



意見交換

意見交換会では、笠原さんから八千浦地区の環境について、そして、大滝さんから北陸新幹線の進捗と合併による新市名について、市への質問がありました。

八千浦地区の環境について

笠原さん Jネットの会員で関東八千浦会の会長の笠原です。今日、時間がありませんから私が書いて参りました（文章を、読ませていただきたいと思います）が、時間がないので、あとで助役さんと市長さん宛て、あるいは三浦さん宛てにお渡ししておきたいと思います。

いずれにしましても、誇れる上越市を作っていく上で、皆さんご存知ないと思いますけど、八千浦地区の黒井・荒浜にまたがる工場残渣の跡が無残な様相を呈しています。私どもの意見を書いてあり

ますので、よろしくお願いしたいと思えます。

森の中に行くと森が見えないんですね。森の外にいと初めて森の全体が見えてくるんです。美しい町、誇れる故郷、ということも盛んに木浦市長さんのお話にもありましたけれど、今の八千浦のあの無残な姿では、誇れる上越市とは言えません。ひとつよろしくお願いしたいと思います。以上です。



三浦課長 それでは後ほど私のほうで受け取りさせていただきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

北陸新幹線の進捗と合併による新市名について

大滝さん 大手町出身の大滝でございます。去年も木浦市長にお答えいただいたんですけれども、私ども故郷から出て来て、現在東京近辺に居る訳ですけれども、

一番の関心事は、やはり北陸新幹線の工事の進捗状況です。それから開通の目途ですね。その辺の話はやはり是非助役さんからいただきたかったなと思います。今年もなにもなかったものですから、また同じ質問をさせていただきます。

それからもうひとつ、十四市町村の合併の話がありました。来年一月一日ということは、知っておりますけれども、名前などはどうなんでしょうか。ほぼ目途はついたんでしょうか。その辺もひとつ是非お聞かせいただければと思います。

北陸新幹線の進捗状況は…

三浦課長 それでは整備新幹線のほうにつきましては私のほうから、合併につきましては部長のほうから説明をさせていただきます。

いただきます。

新幹線につきましては、最近皆様も新聞等でご覧になっているかと思えます。特に北陸新幹線につきましては、平成十二年の段階では、十三年の着工から十二年強後ということで、平成二十五年というのが今、目標になっております。これが今、国のほうで見直しをしているところでございます。最近の情報によりまして、たとえば二年ほど前倒しになるのではないかなというお話も出ております。

いずれにしろ、多額の財源が重要な問題になっておりますので、今年度、これから五月、六月の中で、ある程度の方向性が出るのではないかなということで、我々も今、情報収集に努めておりますし、また、早期に開業するような形の中で、積極的な運動を進めているということでございます。

いづれにしても現段階では平成二十五年頃の開業ということでこちらの方としては承知をしているということでございます。

合併による新市名について

高橋部長 続きまして合併の関係で、新市の名称でございますが、合併協議では基本的に新市の名称は議題が上がって

ません。これは何故かといいますが、編入合併でございいますので、上越市に周りの町村が編入するというところでございいますので、上越市はそのまま残るということとでございいます。

合併を期して新市の名称を替えるというのではないというのが、まず原則でございいます。ただ、上越市の名称を替えられるのは、上越市だけでございいますので、あくまで、これは上越市の問題であるというところで合併協議とは切り離して考えております。従いまして今の段階で市の名称を替えるという段階には至っていないということとでございいます。

太田会長 よろしゅうございますか。今

の答えで、時間的に迫ってまいりましたので、あとは懇親会のほうで如何でしょうか。

どうもありがとうございます。

【参考】

関東八千浦会会長 等原宇美男さんからＪネットの総会で市の方へ文書が手渡され、市の方からはこの文書に対し回答を頂きました。

◆文書の要旨

平成十六年四月十日、十一日、関東八千浦会では「ふるさと訪問ふれあい懇親会」を企画し、翌日、八千浦地区の沿岸を視察しました。

黒井、荒浜地区のＮ社敷地内の耐熱煉瓦材料の粉塵・残渣による、自然環境の荒廃に愕然としました。私たちは、いたずらに失われた八千浦の自然をセンチメンタルに懐かしんでいるのではなく、自然保護と工業化がいかに両立し経済の成長をもたらし、人類の成長に寄与するかに大きな関心を持っています。

今後、関東八千浦会の目標の一つに「八千浦沿岸自然再生」と定め、様々な運動を展開していきます。

◆文書に対する市の回答

上越市でも、当該地区の状況は把握しており、これまでも副産消石灰の利用については、Ｎ社及び県、市の内部において検討してまいりました。

Ｎ社では、「直江津港湾荒浜ふ頭地区公有水面埋立事業」により、残渣を埋立材料として利用することについて県と検討しているところです。ただし、経済状況により埋立事業も遅れる予定ですが、市といたしましても県に強く、その利用を働きかけてまいります。

また、平成十三年度に市と地元がまとめた「八千浦地区環境整備構想策定調査・報告書」について、Ｎ社へも説明し、協力する旨の回答を得ており、今後、行政・地元・企業により、協力してふるさとの環境整備を図ってまいります。いずれにしても皆様の活動とも連携しながら、ふるさとの発展を推進してまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。



懇親会

総会終了後、懇親会を開催致しました。

尾崎副会長、榊原相談役の挨拶のあと、野口相談役のご発声で乾杯により懇親会に入りました。

アトラクションとして、抽選会と利き酒コンテストが行われ、お土産を頂いて皆さんご機嫌でした。

ふるさと抽選会

〔豪華抽選会賞品〕

☆ 岩の原ワイン.....5名

☆ 雁木通り米 5 kg.....2名

☆ くわどり湯つたり村宿泊券.....2名

☆ くわどり湯つたり村利用券.....2名

☆ 花ヶ前氏著書「上杉謙信」.....1名

〔利き酒コンテスト賞品〕

☆ 5種類の地酒の利き酒

「スキー正宗」

〔能鷹〕

〔妙高山〕

〔越の若竹〕

〔雪中梅〕

残念ながら最高の中では3種類でした。
賞品は雪中梅（720ml）..... 3名

〔出席者全員へのおみやげ〕

☆ エスビーカレー

（エスビーガーリック食品（株）様より）

☆ 梅干漬け（JAえちご上越様より）

☆ 正善寺工房のみようがの佃煮







「上杉謙信公」

越後／宮 居多神社 宮司

花ヶ前盛明氏

新潟の県都は本当は上越であった？

上杉謙信の時代のことを考えますと、五智を中心とした地域、これは越後国分寺、それから居多神社、というのがござ



います。それで春日山城、上杉謙信です。から中世の都市であると。それから今度は高田はですね、松平忠輝が一六一四年に築いた、近世の城下町であります。したがって上越市というのは、ともかく直江津の五智地区、それからまた春日山城、そして高田地区とこのように、三つの中心があるというふうにお考えいただければいいわけです。特に、上越は越後県都だったと朝日新聞はね、大きく報じているわけなんです。

越後の全体の、古代、特に奈良・平安時代、今から千年、千二百年前。その越後の中心はどこか。もちろん上越なんです。

そうして、一番はじめに国府がどこにあったのか、国府には国司がやってくる。要するに、今では県知事ですけれども。平安時代の初め、西暦の九二七年、もう平



安時代つていうのは七九四年から平安時代ですから、平安時代の初期になりますね。九二七年。この延喜式という書物をみますと、越後の国府は頸城郡にありと、はつきりと書いてあります。

そして更に、中世においては、春日山城。上杉謙信は越後全体を掌握していたわけです。したがって春日山城、もちろんこれは越後の県都であったわけです。それから、松平忠輝が福島城に入り、更に高田にお城を築いた。一六一四年、江戸時代のごく初めです。この時にもやはり、松平忠輝は、上越から下越、それから川中島四郡、これを全部統治したわけですね。

その時の中心は高田なんです。まあそのようにずっと上越は越後の県都であったわけです。

次の時代を見ていた松平忠輝



松平忠輝も、高田にあんなすばらしい城を造ったんですけども、二年後にはもう改易になってしまった。その改易の表向きの理由は、大阪の陣の際に、松平忠輝の軍の前を兄貴の徳川秀忠の家来が横切り、それを忠輝の兵を先導しているのが切ってしまったとか、ま、そんな程度のいろんな理由で、改易になったんだと言われています。

実際はそうじゃなくて、やはり、松平忠輝つていう男は、非常に将来をみつめた大きな世界にやはり目を開いていた、そういう人物だったんだと考えられます。



言ってしまえば、キリスト教に対しても大変理解があった。そこから辺が、この徳川家康が、幕藩体制と申しましょうが、新しい時代を築いて、要するに江戸幕府を強固にする、がっちりしたものにする、そういうためには、松平忠輝のような、そういう考え方、ヨーロッパの文化を取り入れようとか、キリスト教を取り入れようとか、そういうことはマイナスになると。要するにキリスト教的考え方を抹殺をしたというのが、本当の理由であつたろうと私は考えているわけです。今、そんなことから、上越はまず松平忠輝が七十五万石あつたのが、最後は榊原で、十五万石になつてしまつた。こういう小藩になつてしまつたというわけです。しかしこの高田の地は、非常に重要な街道の分岐点でもあつたわけです。

二つの街道が、加賀街道も北国街道もみんな、高田に集まつていたわけです。それから、江戸幕府にとつて、加賀前

田百万石、これ大変怖いわけです。その見張りとしてもどうしても高田が必要だつた。まあ、いずれにしても江戸幕府にとつて高田はもつとも重要な場所。そこにその六男坊、松平忠輝を置いたんだということまではよかつた。ですから当然新潟県も上越が県都になるはずの要素は持つていた。残念ながら松平忠輝が、あまりにも、越後だけでなくて世界に目を広げた、そういうような優れた人材であつたということが、かえつて県都が新潟へ行つてしまつたということにもつながるんじゃないかなとこのように思つております。

直江兼続がNHK大河ドラマに？

次に、新しい情報、新潟日報の小説です。実は、この小説家、火坂雅志という小説家ですが、新潟市の出身なんです。まあお若くて四〇歳半ばを過ぎたぐらいの年齢なんです。『天地人』という小説を、今年の一月一〇日号から新潟日報に連載しています。

いったいこの小説はどういう意味があるのか、皆様方にお話します。今、新潟県、山形県、福島県の三県の県知事さんが会長になられて、直江兼続公をNHKの大河ドラマへという動きがあるんです。私も非常に、賛成をしている一人な



んです。その大河ドラマの元になる小説、それを何にするかということで、火坂さんのこの『天地人』を新潟日報が依頼したと、こういうことに実はなるわけです。ですからもし仮に、直江兼続がNHKの大河ドラマに登場することになれば、おそらくこの火坂さんの小説が台本になるであろうと、まあそういうことであるわけです。これは不可能ではないというふうに思ふんです。現段階では、NHKもなかなかウンとは言わないですね。

さて、『天地人』は初めは上杉謙信のことをずっと書いていたんです。でも中心はなにかというと直江兼続、なぜならば、あくまでも新潟日報は、大河ドラマの元になる小説を、との要求でありますから、

直江兼続。そして、ちょうど今直江兼続が登場したところなんです。今日の新聞をみてみましたら、ちょうど上杉景勝が春日山城を占拠するときに、周りには上杉景虎軍に囲まれている。そうすると食料や弾薬の春日山城輸送ができない。というところで、直江兼続が、単身の桑取谷へ行つて、齊京という、有力者がいる。そこへ、こつそり行つて、なんとか協力してほしいと、要するにその食料を運ぶための、糧道、道について談判にいく。そんな様子が、今日の『天地人』に載っております。

謙信の考えた本当の後継者は？



上杉景勝というのは、上杉謙信のお姉さん、仙桃院というんですけれども、南魚沼郡六日町へお嫁にいかれた。坂戸町、これは国の史跡になっております。すばらしいお城です。ここへお嫁に行かれて、そして生まれたのが上杉景勝です。それを上杉謙信は養子に迎えていたわけです。だから上杉謙信は、心の中ではお姉さんの子供の景勝を自分の跡取、すなわち越後の大名にしようと思っていたと思うんです。そう言いますが、彼はついに語らずに脳溢血で倒れて、もう意識不明。そしてもう一人は、上杉三郎、景虎です。小田原城主、北条氏康の七男坊なんです。

なんでその小田原の北条七男坊が上杉謙信のもとにきたのかといいますと、初めは、甲斐の武田信玄、静岡の今川、そして、神奈川県相模の北条が、三国同盟を結んで、上杉謙信に対抗していたわけです。ところが武田信玄は海賊がほしかった。そこで、三国同盟を結んだのを無視して静岡県に進出して港をもちました。これに対して、今川と北条はものすごく怒ったわけです。もうそんな武田信玄とは、手を結べない、ということで三国同盟は破棄された。そうすると北条は一匹になってしまったんです。武田信玄の軍勢がもろに小田原、北条に攻めてくるわけです。そこで北条氏は結局、越後の上杉謙信と手を結ぶという形になるわけです。そして人質としてやってきたのが北条氏康の七男坊、三郎でした。

普通であれば人質ですから、当然この同盟が崩れた場合、破れた場合は必ず殺されてしまう。ところが上杉謙信は殺さなかった。しかも祝言をあげた。すなわち養子のひとりの景勝のお姉さんと結婚させた。これに対して父親である北条氏康は、本当に感謝して上杉謙信に、手紙を送っているんです。普通であれば人質ですから殺されてしまうのがない。それを養子として迎えてもらった。単なる養子じゃない。祝言まであげてもらった。父親としてこれ以上の喜びはない。こういう札状を、上杉謙信に出しているわけです。また上杉謙信という武将はそういう手紙を全部保管してある。だから今の米沢には、大変な量の古文書がみんなあるわけです。

それほど上杉謙信は、敵の武将の子供を、なんで祝言まで上げさせたのかというのですが、それは、やはり将来を考えたわけです。お姉さんの子供は越後のトップに、三郎景虎は関東のトップにしよう。上杉謙信は関東のトップと越後のトップ、両方兼ねていた。これは非常に大変だった。両方を束ねるのは。だから上杉謙信はそれを二人に任せようと思うたんじゃないかと考えます。

それを生きてるうちに言えば良かった。二人呼んでね。お前たち二人はこういう私のつもりなんだと、だからひとつ仲良くやってくれと、しかも三郎は小田原の出身なんだから小田原に帰って、関東平野をひとつまとめてくれと。それが私の夢なんだと言っておけば、これはもうあんな戦争にならなかつたと考えます。

謙信の財源は金と青芋

謙信が倒れたとき、春日山城の蔵には三万両のお金があった。もう大変な金です。上杉謙信は、生涯七十回あまり戦った。しかも関東に十三回の遠征、川中島

に五回、更に能登越中に十回、京都に二回なんです。二四歳の時と三十歳、このときはもう長尾景虎、この長尾景虎というのは、京都の公家達は何も知らないんです。どんな山から出てきた男かというぐらいいいものです。長尾なんて全然知らないわけなんです。だから上杉謙信が二四歳の時に、第一〇五代、後奈良天皇に拝謁します。そのときにも金、銀を献上する。更にまた將軍にも、將軍の奥さんにも樽代、なんていうふうに書いてある。樽代、お酒のことです。でも実際にお酒を献上するんじゃないんです。ちゃんとお金を献上するということです。それか



ら御所。御所の門が朽ち果てていた。上杉謙信は傷んでいた御所の門を直す。

こういうことで、京都の公家達は「景虎っていう男はすごい男だ」と。天皇、將軍をはじめとして、貴族達に本当に敬意を表してくれると。これからの新しい時代はやはり越後の長尾景虎かと、こういうイメージを植え付けたんです。

そんなお金を、ものすごく使ったわけなんです。そのお金はどうして作られたのか。いろいろ考えてみますとやはり金銀ですね。農業といつても、それはなかなかお金にならない。お米がとれるといいますが、そんなにお金にすぐ変えるっていうわけにいきません。

どこで金が取れたかと申しますと、岩船郡朝日村鳴海金山。これがまた謙信時代、たくさん産出したんです。それから佐渡では、今の相川金山はだめなんです。あれは江戸時代に入ってからあります。西三川砂金山、今、佐渡に行かれますと小中学生が川で砂金の体験をしております。あの西三川砂金山、あと景勝の実家の上田の銀山。こういう金銀山。それから糸魚川にもあるんです。糸魚川の蓮華山というところなんです。こゝは、ヒスイが取れるわけです。それだけやっぱり山は固い石があるわけです。だから当然、金も出ていいわけです。これは、まだ噂なんです。蓮華山から金が取れたという、そ

ういう情報はないのですが、でも言い伝えはあるわけです。上杉謙信の経済力、それはなんといいますが、金・銀であります。

それからもうひとつは青芋なんです。青芋、すなわち衣料の原料です。越後上布。それがずっと後になって小千谷ちぢみ、塩沢、十日町が産地になりました。

上杉謙信時代もやはり青芋というのは重要だったんですが、さらに直江兼続が、その青芋を積極的に栽培して、経済政策をやったわけです。

ケネディが有名にした十代目上杉鷹山

ちょうど亡きケネディ大統領が、就任したころの話で、日本の記者団がこういったわけです。「ケネディ大統領さん、あなたは日本の政治家でどういう人を尊敬しますか」その時に、ケネディは「上杉鷹山である」といった。ところがその当時、日本の記者は、上杉鷹山を知らなかった。その当時の高等学校の教科書には上杉鷹山はでてこなかったんです。ですからそんなの記者知ってるわけないです。その時に記者は面食らっちゃったわけです。上杉鷹山って何者かと。すぐもう日本のほうへ電話して、十代目の米沢藩主であったと。

でも、十代目っておかしいんですよ。み

んな米沢の上杉鷹山を十代目って言うけど、私がいくら数えても九代目なんです。なんで十代目って書くんだらうかと、よく考えてみたら上杉謙信が初代なんです。上杉謙信は春日山城で亡くなって、そして漆で固めて、米沢に持っていった。だから春日山城で亡くなっているんです。だから米沢にとつては初代ではないんです。それをその米沢の人たちは上杉謙信を初代として、ちゃんと厚く祀って、米沢の上杉家の御廟所の中央の一番奥に上杉謙信のご遺体が埋まっているわけです。

上杉謙信の女性達

なぜ上杉謙信が結婚しなかったか。ところが、噂ではいろいろあるわけです。その一人が、京都の関白近衛前嗣の妹、絶姫という非常にきれいな女性が上杉謙信に思いを寄せた。ところが上杉謙信は結局、越後に一緒に帰ろうなんてことは言わないで帰ってきてしまった。そうしたら、その絶姫は翌年、重い病にかかって亡くなったという言い伝えが残っているんです。それで私も、数年前でしたが調べてみました。「公卿補任」という、また「尊卑分脈」、要するにその公家さんの家柄の系図が残っている。それをみましたところ、残念ながら、絶姫という女性

はいなかった。しかも独身で、上杉謙信が上洛したその翌年に病にかかって亡くなったなんて言う女性は全然系図には出てこないわけです。ということを考えて、その絶姫という女性が本当に実在したのかどうなのか、これはあやしいと。あやしいけれども、そのように言い伝えられているわけです。

もう一人は、上杉謙信は三十一歳の折に、関東へ出陣しました。そのときに、群馬県の平井城主、千葉采女、その娘伊勢姫。その彼女を、今度、上杉謙信の方で是非、越後へ連れて帰りたいところだったというんですね。ところがそのそ



れに対して、柿崎和泉守は、他国の女性を妻にすることは非常に危険である。それはそうでしょうね、夜、グサツとやられれば、それで終わりですからね。だからおよしなさいという進言したわけです。そのために上杉謙信は伊勢姫を連れて帰ることを止めた。翌年、その伊勢姫はまた病にかかって亡くなった。みんなもう、上杉謙信のそういう伝説は全部翌年重い病に罹って亡くなったと。それで、私の言い伝えについても調べてみました。まず千葉采女、そんな武将はいなかった。いろいろ資料を調べて、全然いませんでした。ましてやお父さん、采女というのも、いないんですから、娘、伊勢姫なんているはずない。だからどこで、いつごろからそういう伝承とか、物語が形作られていくのか、非常に、おもしろいことだと思っんです。

まだおります。三島郡与板町。そこに与板城があるんです。そこに直江という、上杉謙信の有力な奉行なんですけど、その直江の娘さん、彼女がやはり上杉謙信に思いを寄せて身の回りの世話をしていた。ところが謙信は全然、「俺と結婚しよう」と言わなかった。ですから、これも翌年、亡くなるんじゃないんです。善光寺さんに入って、出家してしまっった。こういうような話も残っています。まあ、いずれにしましても、上杉謙信

は全然、まあなんていいましょうか、女性の影が全然ない。ところがひとつだけ和歌があるんです。折恋といまして、恋を折るというそういう、なまめかしい、粉らわしいような和歌が残っている。それには、ある女性を思った和歌なんですけれども、これは今日、上杉家にちゃんと残っている。ということを考えて上杉謙信は恋をしていたんじゃないかなどでは誰か。わかりません。上杉謙信もやはり人の子ですから、恋もしたんじゃないかなど、その時にそういう和歌が生まれたんじゃないかなど、まあそういう事実もあるという和歌ですね。

何故、謙信は生涯不犯を守ったのか？

上杉謙信はなぜ結婚しなかったのか。上杉謙信が二十四歳の折に第一回目に上洛をします。そのときに、彼は高野山へ上ります。更にまた下つてきて、そして紫野の大徳寺、この大徳寺にやはりお参りをするわけです。その時に、大徳寺の偉いお坊さんから、いろいろ三帰五戒という仏教の教えを受けるわけです。

その中のひとつに、女性に近づかないというのがあるわけです。五戒のひとつ、まあ大酒飲んじやいけないとか、盗みをしてはいけないとか、人を殺さないとかね。でも実際考えてみて、上杉謙信は大酒飲んで

るわけですから。女性だつて近づけたっ ていいじゃないか、こう思っんですけれども。そういう女性とみだりに、女性に近づいてはいけないつてお坊さんですからね、そうなんですけれども、そういうその三帰五戒というひとつの教えを受けた。

そのために上杉謙信は女性を近づけなかった。二十四歳の時の大徳寺の徹軸宗九という偉いお坊さんの教えを受けて、そして仏門に入った。そのために女性を近づけなかったんだと私はいつも書いてたり、お話ししたりするわけです。そうすると相手の方もまあ納得して、仏門に入ったんだからしょうがないなと、こういうような形で納得してもらっているわけなんです。とにかく、女性の問題については、全然今のところはわからないんです。謙信は天下を取るつもりだった？

さて、いろいろありますけれども、次に、あと時間も終わりになります。まずこの、上杉謙信が、天下を獲るつもりがあったか、なかったかと、いうことになるわけです。

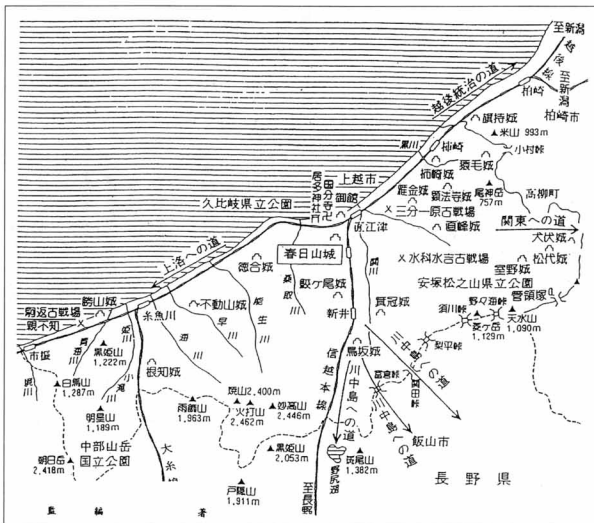
手取川の戦い。これは石川県石川郡美川町。また是非、向こうへ行かれたらこの石碑のところへ寄っていただきたいなと思います。なんか私の分身のような気が

がいたします。私も行って見て参ったんですけれどもね。

とにかくあの、この手取川の戦いで、上杉謙信、織田信長の軍勢、柴田勝家、前田利家、そしてこの佐々成政、あの織田軍を、約四万八千。これを打ち破つたのが手取川の戦いなんです。それで上杉謙信の、勢いというかそれに圧倒されてしまった。そして七尾城に上ります。その時に関東の武將に、こう言っているわけです。『織田軍は案外弱い』と。『この分なら天下を平定することは簡単です』と。まあこのように手紙を書いております。従つて私はね、上杉謙信は天下を獲るつもりがあったんだと。ですけれども、他の武將と違つて、あくまでも謙信は天皇や將軍を盛り立て、そして自分は越後の地で毘沙門天の化身になりたい、こう思つていたんじゃないかなと思つているわけです。決して、謙信は自ら天下に号令をかけるつていうんじゃないで、やはり、天皇、將軍を立て



ようと。それはちゃんと古文書が残っているんです。将軍に対しても、たとえ自分が一兵になろうとも、ひとりになろうとも、将軍のために最後まで戦いますと、尽くしますといっています。こうやって古文書残っているんですから、嘘じゃないわけです。たとえひとりになっても、こう言ってるんですね。景虎ひとりになろうとも。だから、そういうことを考えると、やはり上杉謙信、保守的な男であつたんだということになるわけです。



議事と平成十六年度事業内容

議事

第1号議案 平成十五年度事業報告

第2号議案 平成十五年度決算報告

第3号議案 同監査報告（水嶋監事）

第4号議案 平成十六年度事業計画（案）

第5号議案 平成十六年度予算（案）

第6号議案 役員改選

○長谷川千代理事・澤カシ子理事（高田高女・北城高
校同窓会東京支部長）

山岸孝博理事・福島信之理事・上越青年会議所理事長
（新任）・勝島敏明理事（直江津高校同窓会関東支部長）

その後、予定時間を超過しての活発な意見交換が行われま
した。

平成十六年度事業計画内容

◆会員募集事業

会員目標 九百人

①「ネットだより」、「ネット会報等」による募集

②平成十五年度会員の継続加入の推進

③新規会員の募集

④複数年会員の募集

⑤会員名簿の発行

◆広報事業

①「広報しよえろ」の配布（月一回）

②「ネットだより」の発行（月一回）

③「ネット会報」の発行（年一回）

④「ふさとカレンダー」の発行（十二月）

⑤イベント情報チラシ、特別賛助会員からのお知らせ

の送付（随時）

⑥ホームページの充実とリンクの拡大

◆交流事業

①第8回ふさと交流（探訪）会

・時期 平成十六年四月九日（金）～十日（土）

・参加者 二十四人

・内容 高田公園・ネット記念樹前に現地集合、

高田城址夜桜見学・桑取湯たり村

・北陸新幹線桑取トンネル工事現場の視察

・正善寺工房見学・蕎麦打ち体験、味噌づくり

②「ネットサロ」の開催

・東京地区会場：毎月第二水曜日

運営委員会事務局を会場に、参加費千円

・地区別会場 名古屋地区、大阪地区、長野地区で予定

地区別自主開催の支援（一人あたり千円の補助）

◆総会等開催事業

①総会 平成十六年五月二十二日（土）アルカディア市ヶ谷

②第二回文化講演会 五月二十二日（土）花ヶ前盛明先生

の「上杉謙信公」

③理事会 第一回 総会開催日（五月二十二日）

第二回 平成十七年一月

④運営委員会 毎月第二水曜日

（株）社会システム研究所内

◆ふさとものまろ（り）支援

①市の各種委員会の参画

②文化講演会

③ふさと大使事業

④上越市棚田オーナー事業への参加

平成16年度 ふるさと上越ネットワーク予算

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

■ 収 入

単位:円

科 目	15 年度予算額	16 年度予算額	差 引 増 減	内 訳
会 費	2,975,400	2,935,400	△40,000	・個人会員 900人 @3,000×754人 @2,900×146人 ・特別賛助会員 @50,000×5団体
負 担 金	790,000	1,000,000	210,000	・総会参加者 @5,000×90人 ・文化講演会 @5,000×50人 ・ふるさと交流会参加者 @10,000×30人
交 付 金	4,500,000	4,000,000	△500,000	・市交付金
繰 越 金	1,640,836	2,004,285	363,449	
雑 入	764	315	△449	・預金利子等
合 計	9,907,000	9,940,000	33,000	

複数年入会費預り金	複数年入会費(17年度以降)168人	878,700	収入に見込まず別会計として管理
-----------	--------------------	---------	-----------------

■ 支 出

単位:円

科 目	15 年度予算額	16 年度予算額	差 引 増 減	内 訳
広 報 事 業	5,600,000	5,900,000	300,000	
会員募集事業	1,100,000	1,500,000	400,000	・入会募集チラシ印刷代 400,000 ・会員証印刷 100,000 ・消耗品など 200,000 ・通信運搬費(郵送、レターパックなど) 400,000 ・会員名簿作成費 400,000
広報事業	4,500,000	4,400,000	△100,000	・会報印刷 700,000 ・市広報購入(月1回/A4版) 820,000 ・カレンダー印刷 800,000 ・封筒等印刷 480,000 ・配達料(佐川急便) 1,600,000
交 流 事 業	1,950,000	900,000	△1,050,000	・ふるさと交流会 500,000 ・各地区サロン自主開催補助 200,000 ・消耗品等 200,000
ふるさと支援事業	0	1,000,000	1,000,000	・講演会等事業費 500,000 文化講演会事業 ふるさと大使事業 500,000
総会開催事業	1,230,000	1,150,000	△80,000	・理事会、総会開催費 350,000 ・懇親会開催費など 750,000 ・通信費等 50,000
事 務 費	1,127,000	980,000	△137,000	・通信費、手数料、消耗品など 30,000 ・運営委員会事務局費 980,000
合 計	9,907,000	9,940,000	33,000	

Jネット

「ふるさと越後大使」

Jネット副会長 松川太賀雄（稲田出身）

私たちのJネットは「ふるさと上越」の応援団として八年目を迎えました。今回、上越市の豊かな自然、歴史や文化、そして産業（観光、農業、工業…）、スポーツ、まちづくり等を、今までにも増して広くPRして頂ける方を募り、Jネット「ふるさと越後大使」をお願いすることにしました。そして、総会では申込みがあった四十五名もの多数の方に、Jネット「ふるさと越後大使」の名刺を会長から渡していただき、大使のお仕事をお願いしました。

木浦市長からJネット「ふるさと越後大使」へのメッセージがあり、名刺の裏面に印刷されています。

ここに名刺の表と裏を入れます。

Jネットふるさと越後大使

越後 太郎



総会では和久井理事から、Jネット「ふるさと越後大使」の名称は、上越市には

上越市は、奈良時代に越後国府が置かれ、室町時代には戦国・上杉謙信公が活躍し、その後、越後高田藩の城下町として長い歴史を持っています。日本三大名産地の高田豆腐、日本酒を特色に食の文化をもち、豊後・越前が風に揺れる越後の越前守、そして一面の緑世界と豊かな自然の恵み、四季折々の美しい自然に恵まれた、人情味豊かなまちです。私たちは、高速道路や新幹線、越後川沿いの風景などを活かし、多くの人々が訪れたいまち、住みたいまち、働くまちを目指しています。この上越の素晴らしさを全国の皆様にお伝えし、Jネット会員「ふるさと越後大使」をお願いしました。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

上越市長 木浦 正幸

TEL 025-526-5111 FAX 025-526-6111
http://www.city.jyetsu.niigata.jp

奈良時代に越後国府が置かれ、そして、謙信公が越後の統一を果たしたことに由来していることの説明がありました。

また、会員の方は事実上「ふるさと越後大使」ですが、今回名刺を持って頂いた方には、今まで以上に上越のPRなどをお願いしたいことを、具体的にユーマーまじりで本音を話されました。

その一部を紹介します。

Jネットの総会には支障のない限り誘い合わせて出席すること。

・年間に一度以上、上越を訪れて出来るだけ一泊すること。

・結婚式など、人前でスピーチをする機会には「越後」「上越」「謙信公」などのキーワードを必ず、ひとつ以上は入れること。

・上越の産品を常に愛用し、最低二品は常時家庭に置くこと。

・年間に上越の産品を二品以上、プレゼントすること。

・年間三〇枚以上、名刺を配って必ず上越の良さをPRすること。

・一泊二日の上越旅行のプランを二案以上、他所の人に提示できること。

・上越の朝市・開催日を暗誦していること。（二・七、三・八、四・九）

・上越の酒蔵が出している酒のブランドを三つ以上言えること。

・上越の代表的な産物を五品以上、他所

の人に勧められること。

・年間必ず一名以上の新会員を誘って入会させること。

・年間一つ以上、上越のイベントに参加すること。

・部屋に一枚以上、上越の写真または絵を飾ること。

・休日の朝、三秒間だけ、心に残る上越の風景を想いだすこと。

・年間に一度以上はJネットサロンに参加すること。

これらは決してふるさと越後大使の資格条件を言い当ている訳ではありません。一部でも心に留めていただき、上越の応援を色々な出会いや場面で積極的に展開していただければと期待しております。

皆さんと一緒に上越の応援をして行きましょう。Jネット「ふるさと越後大使」は引き続き募っています。申し込みをお待ちします。

申し込み先 Jネット事務局
（上越市役所企画部企画課）

棚田で、 「田植えと稲刈り」

Jネット事務局

上越市が企画した「棚田オーナー事業」にJネットで加入しました。会員の皆さんに上越の棚田で、田植えや田の草取り、稲刈りを体験して、ふるさととの交流を一層深めて頂きたいと思います。

田植えは、五月二十三日に行われました。当日は天候にも恵まれ、他のオーナーの皆さんと一緒に田植えをし、約半日の作業で植付けを終えて、植えたばかりの田を通ってくる風の薫りを感じながら昼食をとりました。

田の草取りは六月二十日と二十七日に分かれて行われ、畦（あぜ）に生えている草を刈るのが一つ目の仕事で、田んぼの中の草をとるのが二つ目の仕事。田ん

ぼの中はあまり草が生えておらず、田の土（べと）を掻き回してガスを抜く「中耕除草」という作業を行ないました。田んぼで泳ぐ蛙と戯れながらの作業でした。

秋には稲刈りです。参加された方には収穫した棚田のお米をお分けしたいと思っています。皆さんと収穫の喜びと一緒に味わいたいですね。

日程が決まりましたらご案内しますの
で、お知り合いをお誘い合わせてご参加
ください。お待ちします。



高田の花見に参加して

横浜市神奈川区 中島幸雄（寺町二丁目出身）

久しぶりに、故郷高田の花見に参加しました。今年の様に天候に恵まれ、桜も満開の花見は、故郷を離れてから何十年振りの経験でした。丁度 第八回ふるさと交流会が四月九日／十日に行われ、更に私が卒業した大手町小学校の同期会が四月十日に催されたので、両方を兼ねて故郷を訪れた訳です。

過去何回か四月上旬に仕事や同級会の折、花見に行った事はありませんが、何時も早すぎたり、花が散ってしまったり、悪天候だったりでした。

九日朝 東京を発ち昼過ぎ高田に到着。当日は快晴。途中車窓から雪景色の妙高山を背景に満開の桜が見えた時、故郷に戻って来たと言う思いがしました。

ホテルで旅装を解き、高田城址の観桜会会場までのんびり歩きました。青田川（昔の面影は在りませんが）土手に咲く桜

並木も美しく感じられました。高田城三

重櫓、土塁、濠に満開の桜が映える「ふ

るさと上越ネットワーク ふるさと交流

会会場」で上越市の関係者に迎えられま

した。十五時三〇分から木浦市長をはじめ約三十余名が集まり、観桜の宴が始ま

りました。関係者の精魂込めて用意され

た美酒、料理を頂きながら楽しいひと時

をすごしました。西の山々に夕日がかか

る頃、高田公園の桜並木がライトアップ

され、雪洞に灯が入り日本の三大夜桜の

幕が切つて落とされました。私が高田に

住んでいた頃の夜桜に比べ規模も大きく

なり、管理運営も大変と感じました。

翌日 大手町小学校の同期会に参加し

た後、再び高田公園へ同級生と花見に出

掛けましたが、当日も晴天で且つ土曜日

の為、人出は多くブロンズフロムナード

は歩けない程でした。

夜、街の居酒屋で、店の人と話をしたところ花見に限らずレビート客を誘く「種」を探して街の過疎化を防止したいとの事。私も同感です。

またこの様なイベントに参加出来る機会を楽しみに筆を置きます。



お花見

野田市 澤 カツ子（諏訪村東中島出身）

Jネットで桜の苗木寄贈の時、「昭和二十五年三月上千原小学校卒一同」と言うネーム板をつけました。いつか、同級会をこの桜の花の下でやりたいと思っただ。

まだまだ、ずーと先のことになるでしょう。

四年前のJネットの観桜会で、幻想的な花吹雪のシーンを思い出し、今年は高田の桜の下で同級会をやろうと高桑さんに声を掛け、恩師の金子、大田先生を含めて十六人の参加を得て、Jネットの皆さんとの宴の輪に加わることが出来ました。

高田の桜には厚みがあると東京から出席の工藤さんが言います。たしかに、高田の桜は木の多さからも厚みを感じます。会場のJネットの桜も大きくなって私達

を歓迎してくれているようでした。

毎年野田の清水公園の花見が一番喜ぶでお酒を飲んでいた高橋さんがいなくなり東京組も寂しくなりました。

Jネットの皆さん、市長さん、お世話くださる方々にも歓迎され本当に楽しい花見が出来ました。花冷えを心配しましたが日差しもあり、花も三重櫓も夕日に映えて一段ときれいでした。それにもまして出席者の顔が晴れやかに見えました。

翌日は手配のバスで北陸新幹線桑取トンネル工事現場へ、ヘルメットを付けての初体験見学です。開通はまだ先のこと、一日も早い完成を願っています。次に直江津港を黒井の展望台から眺め、昔と変わった様子にビックリしました。正善寺工房では蕎麦打ち体験し、自分

で打ったお蕎麦に旬の山菜テンブラを添えて満足でした。ここでは味噌作りも体験し、半年後の熟成待ちです。

三々五々帰途に着きました。皆さん雑踏の中への帰還の始まりです。

来年も皆さんと桜の下で一献交わしたいものです。



ふるさと雑感

神戸市東区

坂詰幸次郎（黒井出身）

私は長年近畿地方の彼方^{あちこち}此方^{こなた}を輻輳した縁で、神戸市西郊に住まいしています。が、古希を過ぎ往事茫々となつてしまつた今も、わがふるさとの様子が気にかかります。

私は海辺の旧八千浦村大字黒井の出自です。芭蕉の「奥の細道」に随行した曾良の旅日記七月三日の条に「雨晴。鉢崎ヲ昼時、黒井ヨリスグニ浜ヲ通テ、今町へ渡ス」とあるを見付け、もう故人の生家前本教寺の前住職に申し上げたところ、畏敬する住職は、芭蕉が黒井に足跡をとどめているのを知つて寺域に芭蕉の句碑を立てたんだよと仰っていました。

故里と言へば、真先に私の脳裏をよぎるのは、何といつても冬に海から吹きさぶシベリアおろしの強風と横なぐりの雪です。私の幼少年期は十五年戦争の最中でしたが、村の小学校に馬の背様の雪

道をマントにくるまつて、歩きに歩いて通学したことなど忘れようがありません。

亡母が雪始末の気苦労を語る折、人間一生同じ住むなら雪の無い所だと愚痴つたことを思うにつけ、雪に縁遠くなつた今の身の上が不思議です。といつて私は雪の舞う故里を厭う気は全く無く、婦巢本能が波立つのか、雪国を知らない老婆に、どうだい良寛さんみたいに故郷に帰つて暮らしてみる気はないかと、冗談めかすに、その齡で一体雪の始末ができるんですかと反問され、残念ながらそれもそうだねとなるのがオチです。昨今地球温暖化のせい、降雪が少ないようですが、いくら文明が進んでも自然に逆らえず、鈴木牧之著「北越雪譜」に言う雪国の人々の雪始末の苦労は尽きないことでしょう。私は実兄が達者でいてくれるし、上越市内で建設土木業を営み有力企業に育て

た従兄弟たちもいるので、時折帰省しますが、故里の変貌の激しさには驚嘆しています。生家裏手の海辺はむかしを偲ぶよすがはなく、今や海面が埋立てられ、火力発電所ができるこ時勢です。帰省のたびに、わが上越市は様変わりして発展しているんだなあ、ただ美しい自然だけは大事にしてねと願っております。



美しき妙高山と良き仲間達

国立市 小竹公夫（妙高出身）

妙高山はいつも美しい。特に晴れた日の妙高山には神秘的ですらあります。初めてきれいと感じたのは、三才の冬に母と見た、かつて妙高温泉に存在した大天井スキー場から晴天にそびえる妙高山でした。三才児に美しさを感じさせた不思議なことです。私は一九三四年東京生まれですが出産が三月月早いため虚弱児で自然の多い妙高へ夏・冬を中心に母と共に滞在していたと聞いていました。時が経ち第二次大戦勃発後の一九四三年東京にも戦火が及び疎開先が妙高に決まったことは幸運でした。母と始めて離れて暮らしたのが小学生五年で六ヶ月程でした。が食生活で変化がありました。食事の時大きな皿に紫色のナスの漬物が目に入り思わずこれ喰べてもいいのとは感激でした。体の弱い私に母はナスの漬物は消化が悪いとのことで二切れだけそれも紫の

部分を除き白味だけでしたので丸ごと喰べた味の美味しさは記憶に残っています。妙高での疎開生活で食生活が大幅に改革めきめき丈夫な子供に育ちました。関川小六年時学校制度の変更で新制中学としての妙高中学、高田高校へと少年期を妙高で過ごし基本人格を形成させていたいただきました。冬に雪が降り始めますと嬉しくて朝楽しみに積もったかなと窓を開けて外を見ました。池の平・赤倉春には北向きの長範山へとスキーに夢中になり関川小六年時に戦後初の上越児童滑降競技スキー大会が赤倉で開催三名の選手派遣の枠内に私も入り以後妙高中・高田高校でスキー部の一員として良き仲間と交流、心身の成長期に好影響を受けましたことを感謝しています。今年の四月中旬に伊東温泉へ妙高中一九五〇年卒の同級生が五十名集まり同級生大会を一泊二日で開

きます。大切な仲間なので在京幹事の一人として盛大で楽しい会になる様他の幹事達と鋭意努力中の今日この頃です。高田高校関係では東京六華会に入会そして東京一義会の皆様に大変お世話になっていまして幸せの中今年は元氣の中お蔭様で古希を迎えました。これも美しき妙高山と良き仲間のお蔭と思っています。ありがとうございます。



稲田一八会

前餅の町草加市

小林外吉（稲田出身）

想い起こせば今から六〇年前、太平洋戦争真っ只中敗戦色濃厚な昭和十九年三月、稲田国民学校を卒業したその頃の紅顔の少年達と、うるわしき乙女の同級会の名称です。昭和十八年度卒業だから稲田一八会と名づけられました。僕らの小学校の頃は、男女七歳にして席を同じゅうせずの時代で男女別のクラスでした。異性を意識し始める思春期には、しようしくて（憶えていますか？この言葉）お互いに言葉を交わすなんて事はなかなかできませんでした。なんとなく好きな女の子がいました。早熟だったのかなあ？もしもその頃僕らが男女共学だったら、今のカミさんと一緒になっていたいなかっただろうか？

ぶら下がっていたのかなあ、ともあれ昭和の時代の終わり頃、男の誰かが女性達の色香に迷わされ？カーテンの中に消えました。「男のおまんた一緒になつて同級会をしなにかねえ」といわれたのかどうか、はたまた男達が女性達の発する魔力に心身共にしばられて、無条件降伏をしたのかはよくは分かりませんが、それ以降毎年男女仲良く楽しくよろしくやっています。

僕も平成三年頃から喜んで参加しています。戦時の経済統制下、米どころの越後とはいえ当時の食糧事情はこのほか厳しく、関川の土手の草まで食べた苦しい時代を経験してきただけに、歳を重ねる毎に友一人ひとりが懐かしいくとおしく感じます。稲田一八会は毎年大体上越地方で開かれております。夜の宴会揃って踊る佐渡おけさや、いたこ盆踊り、小

学校唱歌の斉唱、あんちゃ、あねちゃの時代にもどつての四方山話に夜の更けるのも忘れます。翌朝、友の健康であることを願い再会を約束しての別れは、七十の坂を二つ三つ越した僕の胸に一抹の寂しさを感じさせます。

ふるさととは遠きにありて想うものでしたが上越もJR新幹線や車で約三時間余りと随分と近くなりました。懐かしい四方の山々は昔と変わらぬ姿で、多くの友は若い頃と変わらぬ友情で、故郷を離れて住む私達を温かく迎えてくれます。しばらく休眠状態でした東京稲田会を今秋からでも再開したいと思います。



三郷土史「葛飾の郷」

船橋市 白石重男（北本町三丁目出身）

私が郷里の旧・高田市北本町から、最初の任地名古屋市に、新婚の妻を連れて赴任したのは昭和三十二年。私は長男

だったので、運命が味方してくれば、郷里に再び帰ることがあるかもしれないと、心ひそかに想っていた。あれから半世紀、二人の子はそれぞれ独立し、会社のすべての役職からも解放されて見ると、青春の頃には思ってもいなかった千葉県・船橋市にねじろを据えていた。

船橋市は、昭和十二年に船橋町と葛飾町が他に三ヶ村を合併して成立した。大戦では戦災を免れ、食糧事情にも恵まれていたので、永井荷風、太宰治、石川淳など多くの人が移り住んだ。船橋は古代東国の入口として、近世には寺社参詣の宿場町として栄えた。船橋は現代の交通では一時間以内で都心にアクセスできる。このため昭和三十五年頃から、団地造成

マンション建設が始まると市民人口が急増し、平成十六年三月には五十六万五千人、県下第二の都市となった。

船橋市誕生の一翼を担った葛飾町地区も事情は同じであった。蛙鳴く田圃にJR西船橋駅が出来ると、交錯して営団地下鉄、JR武蔵野線ができた。近傍の標高十五メートル程の台地に建つ春日神社からは、葛飾田圃の先に塩田があり、東京湾の向こうに富士山を望む景観は一変、ビルの林立するところとなった。

葛飾は縄文早期に始まる貝塚を二つも持つている。弥生期には五領式土器が出土するなど、早いうちに部族や祭祀の流入があった。隣接する台地には下総の国府・国分寺・国分尼寺が造営された。葛飾では本郷台・印内台の台地から多数の竪穴住居跡とともに掘立柱建物跡や墨書土器、漆紙文書、鉄製品に鍛冶工房跡、埋

葬古代馬に金銅製馬具を出土して、郡衙がそれに近い政庁跡が想定されている。ここは九世紀後半の諸国郡名を収録した「倭名類聚抄」の栗原郷の中心部だった。万葉集に詠われた古代葛飾は、太日川（現・江戸川）の流域を挟んで一都三県にわたる長大な郡域を有していた。葛飾（村）町の発足には、発掘調査が今日ほど進んでいなかったが、二郡惣社・葛飾明神」を奉祀してきた八ヶ村の人達の「葛飾の中心」意識は強く、そこに明治人の高揚する精神が籠められてあった。昭和四十一年の住居表示で一帯は「西船」となり、不動産屋がマンション住民の便利に沿うものとなった。

新興都市・船橋は公民館活動が盛んなところである。現在、市内には二十五の施設がある。その葛飾地区の一つで、郷土史や民話をやっていた私どものサークルが、往年の企業戦士や、お子さんを連れれたお父さんで馬頭観音の説明にも困っている人たちのために「かつしか歴史散策マップ」を作った。

これが葛飾の先住者にも、新住民にも好評だったので、西船地区町会連合会から、文化事業として三郷土史「葛飾の郷」の出版依頼を受けた。自身が渡来、新住民であったが、郷土史家S氏の協力、地名研究会・市史編さん室などの支援を得て、三年をかけ、ようやく完成。目下、

お盆に入る前に連合会の全戸、一、一、〇〇世帯の無償配布を終わろうと、印刷、製本を急いでいる。

郷里を出てから四十七年。今も青春時代の郷里を想いながら、私のような郷里をもてなかつた人、第二の郷里を見つけれない人達のためにボランティアを続けている。



戦時中の奉仕活動を偲んで

川崎市麻生区

坪木良雄（高士村飯田出身）

久振りに故郷へ帰り高校時代の友人の車に乗せて貰い、思い出多きあちこちを見学させて頂いた。その行く先々に六十有余年前の情景を具に偲ぶことができた。広々とした頸城平野の田園風景は真に整然と耕地整理され、昔と一変していたことにつくつく感嘆させられました。道路もかつての砂利道ではなく、農道までもが舗装され、大変便利になりました。集落を通るたびに昔の何処の集落だったか全く見当がつかないことばかりでありました。また冬には雪道をトボトボと歩いた集落と集落の沖合いも子供の頃には物凄く遠く感じられたが今では手に取るように近く感じられました。

そのようなことを連想しながら確か小学校五、六年生だった頃、出征兵士の留守宅へ勤労奉仕として農家の手伝いに行った時のことがつい先日のようにです。

日がな一日の野良仕事であつても昼時のご馳走として白いご飯を腹一杯食べさせて頂いたことが夢のようです。また今こそ旧高士村北方にある岩の原葡萄園では生食用は勿論、ワイン、ジュース等の加工品を始めとする数々の製品が世に送り出されていますが、戦時中は軍需産業の一貫として葡萄から電波探知機に利用される酒石酸を採るとかで葡萄を多量に生産しなければならなかったようです。しかし、戦時中のこととて働き盛りの若い男の人は皆兵隊に徴用されているため、労働力不足の補充として小学校の高学年が動員されたのです。その奉仕活動はというと葡萄の根の生長を促すため、葡萄棚の下の土を中耕することでした。皆ほとんど農家の子供であるため、自宅の畝を持参して手伝った記憶があります。

その頃の葡萄園は山を切り拓いて拡張

するたびに区画を一園から順次増して確か十二から十三園までありましたが、私達はそのうちの七園あたりを割当てられて一生懸命に畦り小さな手に血マメを作つて協力したことが思い出の一つです。何十町歩もの広い面積だったので大変な労力が必要としたでしょう。しかし、心残りは葡萄がたわわに熟れた収穫期には頼まれなかったことが子供心に残念でなりませんでした。



ふるさとの想い

大田区 江平久子（四辻出身）

結婚を期に上越から東京に来て三十年余り、嫁ぎ先の両親も高田出身、義父は私と同じ四辻、義母は脇野田、東京に親戚のない私には、同郷は心強いものでした。日々の会話には方言も混じり、食事も味付け食材と、ふるさとの物が多く出て来ます。しかし、義父は十五年前、義母は八年前に他界してしまいました。

その後Jネットの会員になり、東京にいながら上越の情報が入ってきます。今年、農業体験実施の記事を見て、昔を思い出します。

田植の時、「え」といって五軒位の家と組んで四日から五日で順番に田植をするのです。私の中学生の時は、田植休みが有って、「え」をしている家々に、手伝いに行ったものです。又人数が揃わない時には、中学校の友達に頼んで来てもらった時もあります。田植には、格子という

機具を二枚前後に使い、格子の中で横一列に女の人が五人並び、赤い印の所に苗を植えながら下がって行く、男の人が植え終った苗を倒さないように前の格子を後に合せて進んで行くのです。中腰での作業は腰が痛くなるし、硬い田んぼは反ら指になるし、軟らかいと足が抜けにくく時には脚絆の上から蛭にかまれる。そんなおもいをしながら一枚の田んぼが終ると苗が碁盤の目の様になる。それが、あちらこちらに出来上がって緑がきれいです。又小屋に出してもらおうおにぎりや、まぜご飯、煮物などいたたくのも楽しみます。田植は、部落一斉に始めるので田んぼは、老若男女の人人人、まるでお祭りのように賑やかでした。

機械化が進んで来た今、四辻の田んぼは、今年から一町と大きくなり、手作業もぐーんと減り体も楽になった事でしょ

う。
昔ながらの農業しか知らない私ですが、機会があれば農業体験に参加したいと思っています。



野口さんとフラダンス

杉並区 内藤 實（本町六丁目出身）

昨年、Jネットの御大である野口さんと晩秋の常陸路を訪ねました。

五年前に、野口さんから「常盤ハワイアンセンターの設立に、僕が参画したのだよ。」と云われてびっくりしました。炭鉱閉山で失業問題も起さずに転身に成功したことで有名だったのです。ハワイアンセンターは、四十一年にオープンしたのですから如何に素早い対応かが御理解頂けると思います。最近になって、わが国最後の太平洋炭鉱が閉山しています。

ハワイアンセンターは現在ハスパリゾートハワイアンズと名称を改めて入場者数を年々更新しています。私は日立時代によく利用して愛着があり、忘年会でフラダンスをやらされました。ダンサーの使い古しのスカートを借りました。そのスカートがなかなか思うようには揺れてくれなかったことが思い出されます。

機会あらば、野口さんを常陸にお連れして、私の日立時代の仲間や野口さんを知る常陸炭鉱の人たちも交えて、お話を聞く会をもちたいと考えていました。それがようやく実現したので。

太平洋に面した磯原のホテルに一先ず立ち着きました。ホテルはハワイアンズの経営の「山海館」です。

近くには、野口雨情の生家、横山大観や岡倉天心で有名な五浦の六角堂や美術館もあります。

お茶を飲みながらの挨拶からスタートしたのですが、話は段々と遡り、一歩も外に出ず、夕食となりました。野口さんも皆さんも、お酒よりお話の方で、私だけが盃を片手でした。

その話の中で、先ず私に印象に残ったのは、炭鉱で働いていた娘さんたちを、野

口さんが説得してフラダンスのお稽古をしたという話です。隗より始めよで、野口さんの秘書嬢さんが第一号でした。

当時の副社長が立派で、「やりたいことがあつたらどんどん云つて来い」のタイプだったようです。副社長もハワイに実際に行つて納得されたようです。

その他、戦前に苦勞して合併させた会社を、戦後のGHQの集中排除法の分割命令に抵抗して守り抜いた話、昭和三十年代の黒ダイヤの全盛期、四十年に入りエネルギー転換で石炭から石油に移り一挙に閉山勧告を受けたことなど、話は尽きません。

この間の経緯を知るのは、今は、野口さんしかおられません。

安全防止や文房具の加工工場を誘致したり、系列会社を作つて雇用対策もされました。

今回の訪問で、野口さんが心配されていたことは、それらの会社が今どうなっているかでした。こちらでお聞きするところ、立派な業績をあげているとのこと、野口さんも安心されたようです。



そこで聞いた野口さんの軍隊時代の話、小名浜港建設の話も書きたいのですが、別の機会にします。ただ、その話の中で、軍隊の運命は指揮官次第であると云われました。戦場での体験談は迫力があります。

又、小名浜港建設では、日立に第一号のクレーンを発注されたのですが、偶然にも日立の営業課長が高田の出身だったことが後でわかったそうです。先日、その方の消息を調べましたら、一昨年お亡

くなりになりました。

ホテルに泊った夜、野口さんの銅像が、
スバリゾートハワイアンズを見下ろす高
台に立っている夢を見ました。

五年前のJネットふるさとツアーの
湯ったり村の露天風呂での野口さんとの
出会いに感謝します。



ふるさととは遠きにありて 思うもの？

小牧市 清水誠一（清里村出身）

室生犀星の「ふるさととは遠きにありて
思うもの」の詩が好きですが年を重ねて、
この詩の意味をしみじみと実感している
今日この頃です。

私のふるさと清里村は、高田駅から昔
で言う二里半行ったところにあります。
昭和三十五年にふるさとを後にして東京
へ就職し、名古屋、九州、東京、名古屋
と異動して現在の地、小牧市に終の住居
を構えました。この五月に退職して第二
の人生を歩み始めました。

清里村という名前も好きですが、元は
という菅原村と櫛池村が合併されて生
まれた村です。古い歴史の菅原神社と長
野県境に近い京ヶ岳のそばにある坊ヶ池
がふるさとの象徴です。山頂からは妙高
連山、日本海、眼前に広がる高田平野と
昔からの風景は変わっておりません。今
年の四月十日に何十年ぶりで高田公園
の花見に行ってきました。実家の家族と

ともに日本三日夜桜といわれる桜を堪能
してきました。城址には立派な三重櫓が
あり、ライトアップされた桜とのコント
ラストが素晴らしいものでした。夕食は
大変な「こつつおう」で日本海の魚、近
くで採れた山菜、御飯、漬物、味噌汁と
新潟の地酒、そして何時も変わらぬ温か
いもてなしに、身も心も満腹になりました。

同級生やまだ健在の恩師の先生方に会
う機会はありませんでしたが、来年には
郷里でクラス会が開かれます。両親も亡
き今、ふるさととは遠くなりがちですが、年
がすすむにつれ心のよりどころはふるさと
と清里村です。そんなふるさと清里村も、
来年一月より上越市に合併されます。昔
からの地名が消えるのは淋しい気がしま
すが、財政事情を考えると止むを得ない
かもしれません。

合併といえば、昔の高田市と直江津市

とで今の上越市になったと聞いておりま
す。思い切って、歴史と伝統の城下町本
家、「高田市」に戻ってはと夢見ておりま
す。

ふるさとを離れて生活している皆さん、
極力機会をつくってふるさとで「じよん
のび」してませんか。



幼い頃のわが町内

横浜市 清水吉雄（南本町出身）

私は南本町国民学校を出てから、戦中、高田中学で、ほとんど勤労動員（出征農家の田植から、信越化学のマンガン鉱炉の窯たき）で奮闘し、昭和二十八年高田をあとに埼玉、東京へと転勤、いつの間にか七十四才になってしまった。

還暦あたりから時たま思い出されるのは、小学二年生頃の学校帰りの道草である。

平井呉服店さんの角を曲がり、最初に雁木下の店前に立ち止まるのは、蠟燭屋さん。蠟を手にくくませて、何本も一緒に太くする仕草に見とれ、その次は三十三連隊前の盃屋さん、次に高橋鮎屋さんのウィンドー、「笹船」「翁船」「るり船」に注目した後、田中さんの神棚造りに感心してから、光山さんの石版印刷、太版一枚一枚をきれいに仕上げられる。尾崎さんの菓子箱の調子のあるホチキス打とめ。杉山さんの洋服の仕立て、白倉さんの雪

鋸目立て。この辺で、うまい香にさそわれて藤沢そば屋さんの前へ、しばしたたずむ。「どじょうの蒲焼」である。手ぎわのよいさきから串さし、焼きに凝視して満足しながら、やつと我が家にたどり着く、尊い得がたい道草だったと今でもなつかしく思い出される。爾来「どじょうの蒲焼」は、浅草の駒形どじょうでも食することのできないうまい逸品だと思う。このほか高田のうまい物は、「たら子の麴漬」「杉の香のところてん」「壽羊かん」「川渡りもち」「雪大根おろし」「富寿司のかんぴょう巻」など他所では得がたいうまいものがある。

東京銀座で「南本町三丁目町内会」を有志男女十人くらい町内出身者が集い、昔のお店を平井さん角から順々に審問しながら話し合うのが、花が咲き、たのしい一時でありました。

近來、帰省して、あのお店を見れない

のは、さびしい限りであります。
医食同源、バランスのとれた食事を心がけねばと、おくれげながら反省している日々ですが、「おまんた、いつまでも達者でやってくんないや!! ソーダネカネー」



Jネットサロンのご案内

○東海地区サロン(名古屋サロン)

第五回Jネット名古屋サロン開催の計画が決まりました。

名古屋地区では平成十二年十二月三日に第一回名古屋サロンを開催して以来、毎年回を重ね、今年で五回となります。

東京では、毎月一回の開催とのことですが、名古屋では「七夕」みたいに年一回集うことで進めています。回を重ねるごとに出席者も増え、昨年は四十名を超える方々にお集まり頂きました。会場は名古屋のランドマーク・JRツインタワー内にあるお店です。名古屋駅の真上で交通の便が良く、割とお手軽なお値段で和やかな時間が過ごせます。

今年も次のように企画しましたので多くの方に出席方お願い致します(特別メニューもあるで来てちょー！)。

日時・平成十六年九月四日(土) 十八

時より(集合:十七時五〇分)

場所・名古屋マリオットアソシアホテル(JR名古屋駅ツインタワー

15階コーヒーションアップバーゴラ

電話・〇五二一五八四一〇一

会費・四千元(当日会場にて)

名古屋通信員:尾原 勝利



○関西地区サロン（大阪サロン）

昨年は十二月に開催されました。
今年の日程等決まり次第お知らせします。



○東京地区サロン

毎月第二水曜日の午後五時三〇分から東京渋谷で開催しております。
会費千円





創業明治23年 伝統の味 岩の原ワイン

～日本の本格的ワイン発祥の地～

株式会社 岩の原葡萄園

TEL 025-528-4002 新潟県上越市北方1223番地
URL <http://www.iwanohara.sgn.ne.jp/>

日本の本格的ワイン発祥の地「岩の原葡萄園」は、明治23年の創業以来、3世紀にわたって高品質のワインを世に送り出してまいりました。
お蔭様で上越市の代表的な特産品として、多くの方にご愛飲いただいております。さて、弊社では、遠方にお住まいで、お近くに岩の原ワイン取扱店がない方に向けて、『岩の原ワイン みゆき会』の会員を募集いたしております。
ワイン1万円(税別)以上のご注文で送料無料、ご入会プレゼントや、お買上げのポイントによるプレゼントなど、色々の特典がございますので、Jネット会員の皆様も是非ご利用下さい。
お問い合わせ 株式会社岩の原葡萄園 025-528-4002

上越を読む

月刊 **JACK LAND**
上越エリア情報誌 ジャックランド

TEL 025-524-4275 FAX 025-524-4451



さらに飛躍します!

ニッポン部

(※発行部数 H16年7月現在)

毎日、発行しています。

地域の元気を刺激する

日刊 **上越タイムス**

購読料 **2,875円**(郵送料込)

お申込みは...

☎ **0120-17-4243**

times@joetsu.ne.jp

上越タイムスの本誌「じょうえつ野の花」読後直売場、「文」小林金太郎「ひそひと寝る、やぶしく語りかける新々の花」たち100頁収録(¥2,875+送料別) ●「上越の足跡と人物」花ヶ原道明 上越市史の22市町村の足跡と人物を解りやすく解説した一冊(¥1,995+送料別) ●「金谷山ものがたり」杉みき子 やぶしくと郷土愛がにじみこむ一冊(¥1,995+送料別)

環境との調和で新たな価値を

FUKUDA CORPORATION



株式会社 **福田組**

代表取締役副社長
営業本部長

田村 春男

東京本社

〒162-8411 東京都新宿区市谷本村町3-26

TEL 03-3269-4711 FAX 03-5261-5387

上越の催し物

ふるさとのお祭りに、帰省の際には是非ご参加ください。

■「上越まつり」7月23日(金)～29日(木)

- (高田地区) ・23日 大民踊流し
・25日 花火大会
・26日 御輿の川下り
- (直江津地区) ・26日 花火大会
・28日 大民踊流し
・29日 お銭米奉納



■「はすまつり」8月1日(日)～15日(日)



■義の塩づくり 8月8日(日)



■「謙信公祭」 8月16日(月)～17日(火)

- 16日 ・謙信公「義の塩」献上儀式
・出陣行列
・武てい式

- 17日 ・献納米合戦
・大民踊流し



上越市の施設



上越市の施設を割引で利用できます。利用の際には
会員証を提示してください。

名 称	住 所	電話番号	料 金 一 般
リージョンプラザ上越 (アイスアリーナ貸し靴除く)	上越市下門前446-2	025-544-2122	レジャーブル 400円(200円) アイスアリーナ 800円(400円)
市民プール	上越市下門前446-2	025-544-2122	300円(150円)
上越科学館	上越市下門前446-2	025-544-2122	400円(200円)
水族博物館(サイクルモノレール含む)	上越市西本4-19-27	025-543-2449	通 常 料 金 900円(450円) イルカショー 1,200円(750円)
オールシーズンプール	上越市新光1-9-1	025-524-3130	300円(150円)
五智公園キャンプ場(バンガロー使用料)	上越市五智9-1569	025-543-5948	バンガロー 使用料 6人用 3,500円 (1,750円)
総合博物館(特別展除く)	上越市本城7-7	025-524-3120	300円(150円)
高田城三重櫓	上越市本城6-1	025-526-5915	200円(100円)
日本スキー発祥記念館	上越市大貫1453-1	025-523-3766	300円(150円)
金谷山スキーリフト・スーパースレー	上越市大貫595-2	025-525-4295	リフト・ボブスレー 1回につき各100円(50円)
海洋フィッシングセンター(えさ代除く)	上越市虫生岩戸	025-544-2475	100円(50円)
交通公園ゴーカート	上越市五智9-1569	025-543-5948	ゴーカート 1人用 100円(50円)
市民いこいの家	上越市石橋1-1-3	025-545-5270	250円(125円)
市民プラザ	上越市土橋1914-3	025-527-3611	施設により料金が 異なります
小林古彦邸	上越市本城7-1	025-525-2429	200円(100円)
上越リゾートセンターくるみ家族園	上越市東中島2487	025-544-7440	400円(200円)
春日山城跡物語館	上越市大豆335	025-544-3728	無料
旧師団長官舎	上越市大町2-3-30	025-526-5908	無料
上越市埋蔵文化財センター	上越市春日山1-2-8	025-521-6280	無料

* () 内は会員の割引料金です。

編集後記

梅雨の季節の晴れ間を利用して、趣味の草月盆栽を植え替えております。

皆様、如何お過ごしでしょうか。

新たな出会いの際に出身が越後であったり、ましてや上越だったりすると気の許せる昔からの友達にす
ぐなります。何処でお会いしても嬉しくなります。Jネットはこんな出会いのお手伝いもしております。この
気持ちで読み易い楽しい会報を目指してはいるのですが、なかなかご期待に添うようには出来ません。
1月の第1回文化講演会、4月の観桜会、5月の総会と第2回文化講演会はいずれも盛会で楽しいひと
時でした。今回も行事を中心にまとめましたが、感想は如何でしょうか。

たくさんの方の投稿、写真を提供いただき有難う御座いました。

これからは会報作成にご協力お願い致します。思い出の出来事、写真などお寄せください。

猛暑がやって来ます、ご自愛の程を。

Jネット運営委員 岡村博己



●発行

ふるさと上越ネットワーク事務局(上越市企画部 企画課内)

〒943-8601

新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-526-5111 FAX.025-526-8363

E-mail: j-net@ml.city.joetsu.niigata.jp

運営委員会事務局

〒150-0011

東京都渋谷区東1-26-30 渋谷イーストビル

(株)社会システム研究所内

TEL.03-3499-8299 FAX.03-3486-0986

URL <http://www.joetsu.gr.jp/>

【情報をお待ちしています】 TEL.025-526-5111(Jネット事務局)
